

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

診断時からの緩和ケアの促進・阻害因子に関する研究

研究分担者 清水 千佳子 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 外来医長
研究協力者 森 雅紀 聖隷三方原病院 緩和ケアチーム
研究協力者 采野 優 聖隷三方原病院 ホスピス科

研究要旨

がん対策推進基本計画等による推奨にも関わらず、診断時からの緩和ケアの実践が臨床現場では十分に進んでいない可能性が考えられ、そこには何らかの阻害因子が関与している懸念がある。本研究班では、平成30年度に医療従事者・患者・家族を対象とし、現場で直面する診断時からの緩和ケアの実施に関わる阻害・促進因子の調査を行う予定である。本研究の基盤を構築する目的で、平成29年度から学術的文脈における「オンコロジーと緩和ケアの連携」の阻害・促進因子に関する系統的レビューを行っている。系統的文献検索により3034件の文献情報が同定され、タイトル・抄録の精査の結果、最終的に66件の文献が全文精査の対象となった。今後これらに質的分析を加え、得られたデータに基づき本研究を遂行する予定である。

A. 研究目的

国際的なエビデンスにより、進行がん患者に対してがんと診断されたときからの緩和ケアを提供することで患者の生活の質や症状の改善、医療コストの低減効果が示され、欧米の主要学会はがん治療中から専門的な緩和ケアを提供することを推奨している。我が国ではがん対策基本法の施行以降、早期がん患者も含めた「治療の初期段階からの緩和ケア」「がんと診断されたときからの緩和ケア」が推進されてきた。これらの推奨にも関わらず、診断時からの緩和ケアの臨床実践は十分に進んでいない可能性が考えられ、そこには何らかの阻害因子が存在する懸念がある。本研究班では、平成30年度に医療従事者・患者・家族を対象とし、現場で直面する診断時からの緩和ケアの実施に関わる阻害・促進因子の調査を行う予定である。本研究の基盤を構築する目的で、平成29年度か

ら学術的文脈における「オンコロジーと緩和ケアの連携」の阻害・促進因子に関する系統的レビューを行っている。

B. 研究方法

1. 研究デザイン
系統的レビュー
2. 調査対象文献

「オンコロジーと緩和ケアの連携」を「抗がん治療と並行して緩和ケアサービスを提供すること」と定義した。原著論文・総説・ガイドライン・エディトリアル・コメンタリー・レターを対象文献とし、非英語論文・研究計画論文・学会抄録は除外した。系統的検索は、MEDLINE・EMBASE・CINAHLにおいて2017年5月に実施された。検索式は、“Palliative Care” “Neoplasm” “Delivery of Health Care, Integrated” の統制語に加え “early

palliative care” “cancer”等のフリーワードの組み合わせで作成された。

3. データ収集と解析調査票の作成

4人の独立した研究者が、系統的文献検索で得られた文献情報のタイトル・抄録を精査し、組入・除外を判定した。一貫性を担保する目的で1人の研究者がすべての抄録を、他の3人の研究者がそれぞれ3分の1ずつの抄録を分担した。判定に齟齬が生じた際は、研究者間の合議により組入・除外を判定した。それでも一致を見ない場合は、第5番目の研究者を交えた合議の上、判定を行った。全文精査対象文献の確定後、5人の独立した研究者が対象文献を精査し、「オンコロジーと緩和ケアの連携」の阻害・促進因子に関するデータを抽出する。一貫性を担保する目的で1人の研究者がすべての文献を、他の4人の研究者がそれぞれ4分の1ずつの文献を分担する。抽出されたデータは、内容分析の手法を用いて、質的に解析を行う予定である。

(倫理面への配慮)

本系統的レビューは文献研究であり、各種研究倫理指針の対象外と判断し、倫理審査は省略した。

C. 研究結果

系統的文献検索により3034件の文献情報が同定され、うち900件が重複しており除外された。2134件のタイトル・抄録が4人の独立した研究者によって精査され、最終的に66件の文献が全文精査の対象となった。その内訳として、原著論文23件(34.5%)、総説33件(50.0%)、系統的レビュー3件(4.5%)、ガイドライン3件(4.5%)、エディトリアル3件(4.5%)、レター1件(1.5%)であった。

D. 考察

本系統的レビューは、国際的な系統的レビューの実施計画レジストリであるPROSPEROに登録が行われ、計画通り進行中である。(PROSPERO

ホームページ:

https://www.crd.york.ac.uk/prospero/display_record.php?RecordID=69212)

E. 結論

「オンコロジーと緩和ケアの連携」の阻害・促進因子の系統的レビューを実施中であり、66件の文献が全文精査の対象となった。今後これらに質的分析を加え、得られたデータに基づき、平成30年度の「診断時からの緩和ケア促進・阻害因子に関する研究」を遂行する予定である。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産の出願・登録状況

特許取得

なし

実用新案登録

なし

その他

なし